

キリスト教保育

年主題
さあ、漕ぎだそう
奏でよう

論説
「共生社会の担い手を育む」を
保育の合言葉にしませんか
久保山茂樹

小論
動物は私たちの
かけがえのないパートナー
谷田 創



2024 AUG.

8

あなたがたは、神に愛されている子供として、神にならう者になりなさい。

聖書 口語訳聖書・エペソ人への手紙5章1

人間とは何か一昔から多くの人たちがそれぞれの分野において、探求と体験を続けてきたが、聖書は、私たち人間に対して、普通の尺度と違った根本的な見方をしている。それは、年齢や職業や境遇など人間的状況によって、決して変わらぬ、すべての人間に根源的な見方と言えるが、一人ひとりの人間が「神に愛されている子供」であるというのである。聖書はどんな人でも「神に愛されている」人間だと言っているのである。

エフェソの信徒への手紙の今月の聖書の言葉は、使徒パウロの獄中書簡の一節であり、彼の信仰の確信と告白が語られているが、また、この短い言葉の中に、旧約聖書と新約聖書を貫く聖書全体の信仰が要約されていると言ってよい。

人は、愛によって本当に人間として生きる。愛する者に会った時、生きる喜びと希望に心を燃え立たせられる。また、愛されている自己に目覚めた時、決してゆるがぬ生きる力と支えを与えられるのである。本当に愛されている人が、正しく愛することができるのではなからうか。私が愛するとともに、愛されているのである。自分が相手を選んでいるとともに、自分もまた選ばれているのである。そこに謙遜があり、感謝があるのだ。本当の幸せは、愛するものを持つとともに、愛されている自己（弱さや欠けをもっている）を知ることだと思う。このことは、夫婦の間でも、親と子の間でも、保育者と子どもの間でも言えるのである。私が子どもを愛するだけではなく、子どもから愛されていることを忘れてはならない。真の教育は、その愛の交流から始まるのではなからうか。さらに根源的には神と人間との関係を指し示すのである。

愛によって人間は固い心の扉を開く。私たちは、私たちを愛してくれるものに会った時、本当に従うことができるのである。

「あなたがたは、神に愛されている子供」これは、単に子どもたちへの語りかけにとどまらず、私たち一人ひとりへの呼びかけなのである。

(田井中 純作・執筆 時・日本キリスト教団倉敷教会牧師)
1975年『キリスト教保育』誌7月号より

キリスト教保育

第665号8月号



年主題

さあ、漕ぎだそう 奏でよう

幼子とともにキリストへ
目次

〈巻頭言〉 エンミチ文庫 押切道子

〈論説〉 「共生社会の担い手を育む」を

保育の合言葉にしませんか①

久保山茂樹

〈小論〉 動物は私たちのかけがえのない

パートナー 谷田創

図書紹介 久保田孝子 小野みどり

聖書に聞く・お話 月下星志

【カリキュラム】

8月 月のねがい表

心にとめて 富田恵美子

実践報告 こひつじこども園

実践からの学び 矢野キエ

心にとめて 半澤納帆

実践報告 谷の百合幼稚園

実践からの学び 松浦浩樹

絵本のとびら 三上智子

20 19 14 6 4 3 2

子どもと賛美するために
私たちの園では 赤坂洋子

〈連載〉 小さな庭だより 高浜真理子

〈連載〉 日々、子どもたちから

学んでいること 齋藤惇夫

目福口福耳福 広岡直太

礼拝のお話 家次早紀

風 川島祥子 編集子 赤木敏之

連盟だより

カット 中畝治子 小鯛みのり 松成真理子 金井ユリ
表紙絵 田中榎子

40 39 34 32 31 26 24 23

64 63 52 51 48 44 42 41

